

日越交流 40 周年記念シンポジウム開催報告

土木学会 (JSCE) はベトナム土木協会 (VFCEA) およびハノイ建設大学 (NUCE) との共催で、地下構造物建設・地下輸送・地盤工学を対象としたシンポジウムを開催し、成功裏に幕を閉じました。本年は 1973 年から数えて日越国交 40 周年を記念する年にあたり、様々な記念行事が企画・実施されています。本シンポジウムもその公式行事の一環として企画・実施されたものです。

国際センターベトナム Gr. は年初よりベトナム土木協会およびハノイ建設大学の担当者らと協力し、準備作業を継続してきました。またベトナム現地における組織委員会はベトナム土木協会の国際活動委員長であり、ベトナム地盤工学会の会長でもある Nguyen Truong Tien 教授の主導のもと運営が行われました。

本シンポジウムは日越両国の土木技術者に対して、①共通課題に対する情報交換、②専門家ネットワークの構築、③両国の長年に渡る友好関係の再確認を行う機会を提供することを目的として実施されました。



ベトナムグループリーダー
Phan Huu Duy Quoc



開会式の様子

首都ハノイ中心部のホーチミンミュージアムにて行われた 2 日間に渡るシンポジウムには、日本からの参加者約 60 名を含む総数約 300 名が出席しました。土木学会からは小野武彦前土木学会会長を団長とする代表団が派遣されました。小野前会長は今年 6 月までの任期期間中、土木学会長として土木分野における日越間の協力関係の強化に尽力されていました。

招待講演者として土木学会から 4 名の方々が以下の題目で基調講演を行いました。

- ・メトロネットワークの発展 (森地教授：政策研究大学大学院)
- ・地下空間の有効利用 (松下教授：芝浦工業大学)
- ・都市インフラのためのシールド技術 (金丸氏：清水建設)
- ・技術インフラのためのパイプジャッキング工法 (安田氏：安田エンジニアリング)

基調講演および技術講演では、ベトナムと日本の建設分野における協力を焦点を当てつつ、ベトナム国内での地盤工学・地下施設建設・地下輸送などにおける最新の動向について非常に明確な説明がなされました。シンポジウム初日は 8 編の基調講演と 10 編の技術講演が日本、ベトナム両国の技術者により行われました。

シンポジウム二日目は技術講演に併せて、これからの土木学会とベトナム土木協会の協力関係について議論する特別セッションが行われました。特別セッションでは、協力関係を通じてベトナム、日本両国内での実際の建設活動におけるニーズに答える成果を生み出し、また技術者と研究者の直接的な交流の機会を創出することを目標とする合意がなされました。この目標に向けて、“地下空間の有効利用とその建設”、“大径間橋の建設とモニタリング”、“深礎と地盤改良”、“技術者教育と資格制度”といったテーマに対するワーキンググループ設置のために共同作業を実施することが併せて合意されています。また日本で土木技術を学んだ土木技術者

がネットワークを通じて集まり、両国間の交流の懸け橋を担うという考えについても合意しました。

シンポジウムの最後には日本のODAプロジェクトであり、またベトナム国内で進められているインフラ整備における日本とベトナムの協力関係の象徴とも言える Nhat Tan 橋建設現場の見学会が行われました。

本シンポジウムは日本の国土交通省、ベトナムの建設省(MOC)、国際協力機構(JICA)や在ベトナム日本大使館といった様々な政府機関、および交通運輸大学(UTC)やベトナム若手土木技術者会の多大な協力のもと実施されました。土木学会とベトナム土木協会は2000年に最初の協力協定を結び、2012年にこの長期に渡る協力関係に対して新たな覚書を取り交わしています。土木学会は同じく2012年にベトナム橋梁道路協会(VIBRA)およびベトナム構造建設技術協会(VASECT)との協力覚書にも署名しています。

また、シンポジウムの前日には土木学会とハノイ建設大学の間で協力覚書への署名が行われ、同時に日越土木技術者協力促進センター(Center for promoting Vietnam - Japan Civil Engineers Collaboration)と呼ばれる新たな活動拠点が開設されています。このセンターは両国の土木技術者に対して日本の技術文書の提供する協力・交流の場として、会議の開催や協力活動の拠点となることが期待されています。



**日越土木技術者協力促進センター
開設式典における覚書交換**

今回のシンポジウムはベトナムと日本の、とりわけ土木工学における協力関係を再確認する場として、土木学会とベトナムにおける各専門家組織との協力関係がより強固な基盤を持った新たな段階に進展していることを確認することができたと考えています。